

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成27年5月14日 (2015.5.14)

【公開番号】特開2013-237410(P2013-237410A)

【公開日】平成25年11月28日 (2013.11.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-064

【出願番号】特願2012-113016(P2012-113016)

【国際特許分類】

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

B 6 2 J 17/00 (2006.01)

B 6 2 J 15/00 (2006.01)

【F I】

B 6 2 J 39/00 L

B 6 2 J 39/00 H

B 6 2 J 17/00 A

B 6 2 J 15/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成27年3月30日 (2015.3.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

ところで、自動二輪車の前面の投影面積が小さい方が走行時の空気抵抗を小さくできるので、上述のようなフロントカウルが装着された自動二輪車では、フロントカウルの位置を極力低くしたいという要望があり、前輪を懸架するフロントフォークが最大限に収縮した状態でフロントカウルおよびフロントフェンダに干渉しない範囲でフロントカウルをフロントフェンダに近接させるような設計が行われている。このような設計を行う場合に、ラジエータの冷却性能向上を図ることを目的として、フロントカウルの下縁に沿って後方に流れる走行風をより積極的にラジエータ側に向けるための導風ガイドを設けることができるが、その導風ガイドをフロントカウルの下縁に設けると、その導風ガイドおよびフロントフェンダの干渉を回避するためにフロントカウルの位置を高く設定しなければならず、導風ガイドによる冷却性能の向上、ならびにフロントカウルの低位化による空気抵抗の低減の両立が難しかった。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

本発明の第 8 の特徴によれば、フロントカウルの底板の車幅方向に沿う中央部の下面に形成されて前後に延びる溝の最大幅内に、車両正面視で導風ガイド部が配置されるので、底板の下面の溝を利用して導風ガイド部側に走行風を導き、導風効果を高めることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

前記内燃機関Eの機関本体19は、車体フレームFの幅方向に延びる軸線を有するクランクシャフト20を回転自在に支承するクランクケース21と、該クランクケース21に前部上端から前上がり延びるシリンダブロック22と、該シリンダブロック22の上端に結合されるシリンダヘッド23と、該シリンダヘッド23の上端に結合されるヘッドカバー24とを有して、たとえば直列4気筒に構成され、この機関本体19の前方かつ前記前輪WFの後方には、前記車体フレームFの前部で支持されるようにして熱交換器であるラジエータ33が配置される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

前記センターカウル41は、前記フロントカウル40の後部に連設されて前記車体フレームFの前部を側方から覆う上部カウル47と、該上部カウル47の後部に連設される下部カウル48とで構成され、前記下部カウル48は、前記機関本体19のシリンダヘッド23およびヘッドカバー24、前記内燃機関Eの排気系37の一部および前記ラジエータ33の一部を側方から覆うように形成される。また上部カウル47および下部カウル48の前部間には、前記ラジエータ33側に走行風を導くべく側面視で前記ラジエータ33の上部を横切る開口部49が前後方向に延びて形成され、前記下部カウル48の前部にはウインカ50（図1参照）を取付けるためのウインカ取付け座48aが形成される。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

図8および図9を併せて参照して、前記空気取入れダクト67は、左右一対のダクト半体68、69が相互に結合されて成るものであり、横断面形状を矩形状として構成される。しかも空気取入れダクト67の前端部には、前記ヘッドライト組立体56における筒状の連結部58の後端に連なる導入口70が形成され、空気取入れダクト67の後部には、該空気取入れダクト67内を左右に区画する仕切り壁71で隔てられる左右一対の導出口72、72が形成され、前記空気取入れダクト67内には、前記導入口70から導入された空気を前記両導出口72...に流通させる空気通路73が形成される。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

また前記ヘッドパイプ12の前記通路76...は、図5および図6で示すように、前記ヘッドパイプ12に後方から取付けられるジョイント77が有する左右2つの空気通路78、78に連通する。また前記ジョイント77には、図6で示す空気導入部材79が接続される。この空気導入部材79は、前記吸気系34のエアクリーナ35に取付けられるものであり、空気導入部材79が有する2つの入口通路80、80に前記ジョイント77の2つの空気通路78...が個別に連通する。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

前記空気取入れダクト67の前記最下部底壁67aの下面は平坦に形成されており、その下面に、車幅方向に延びる複数たとえば3つの前記導風ガイド部86～88が下方に向けて突出するようにして一体に形成される。